

保護司会連絡協議会会長賞

公平な社会を目指して

堺市立 槇塚台小学校 六年

杉野 詩月

私は、犯罪や非行がない明るい社会について考えたとき、先日学校に警察官の方が来てくださり、犯罪や非行について話してくださいました。話を聞いて私が感じたことは、どんなことがあっても、必ず立ち直ることができるということでした。立ち直るためには、家族や友だちなどの周りの人の力を借りることがなにより大切だと思いました。周りの人の温かい言葉で犯罪を犯してしまった人も心が温かくなり、立ち直ることができるのではないのでしょうか。私にはどんなことができるのか考えてみました。

私は、クラスで友だちと関わるときに大切にしていることがあります。それは、だれに対しても公平に接するということです。私はクラスでこんな経験をしました。私には、少し苦手な人がいました。その人は、注意しても聞かなかったり、真面目に取り組まなかったりしていたけれど、苦手だからと言って距離をとったりはしませんでした。どんな人にも必ず素敵なところはあるので、

その人の素敵なところを探したり知ろうとすることが大切だといつも思っていたからです。なので、私もその子の素敵なところを探すようにしました。すると、私が苦手だと思っていた人にも、誰かが落としたものを拾ったり、自分が悪いことをしたなと思っただけで謝ったりする姿が見られ、いつの間にか苦手意識はなくなりました。嫌いだと決めつけずにその人のいいところを見つける努力が大切だと思いました。

また、休み時間にクラスみんなで遊んでいるのにずっと一人でいる子がいました。その子は話すのが苦手で、みんなもその子とどう話せばいいかわからなかったもので、一人になってしまったということがありました。私はその子と、どう話せばいいか考えているうちに、みんなと違う部分も、一つの大切な個性だということに気が付きました。私はその子に、勇気を出して話しかけてみたら、話しかけにくいと思っていたけど実際はそんなことはなく、話しかけやすい人だという事が分かりました。一人一人の違いを受け止め、認め合って、関わろうとすることが大切だと思います。

ました。

クラスだけでなく、社会でも同じことが言えると思います。自分と考えの違う合わない人や、周りと違う人など様々で個性豊かな人がいる社会の中で、私たちは生活をしています。そんな中、平和にみんなが笑顔で暮らしていくためには、やはり誰に対しても公平に接していくことがとても大切だと思います。相手のいやなところだけではなく、いいところを知ろうとすることや、自分と違うところを見つけても、相手と関わり受け止め、認め合うことが大切だと感じました。誰に対しても、公平に接することを心がける人が増えると温かい輪が広がっていき、犯罪や非行のない平和で明るい未来が見えてくるのではないのでしょうか。

